

「八戸圏域定住自立圏路線バス上限運賃化実証実験」について

八戸市都市整備部都市政策課

1. はじめに

八戸圏域定住自立圏は、青森県南東部に位置する八戸市を中心市として周辺7町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）により構成され、平成20年10月に先行実施団体に選定されたことを皮切りに「定住自立圏構想」を推進しています。

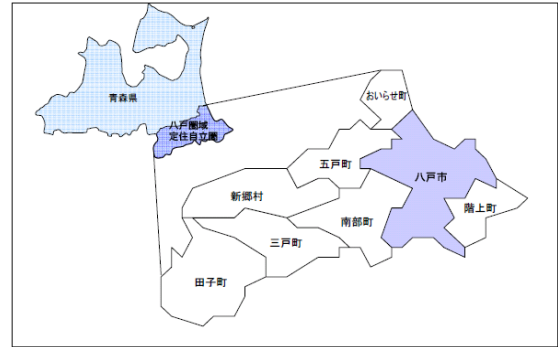


図1:八戸圏域定住自立圏と構成市町村

ご案内のとおり、定住自立圏構想の中では、「結びつきやネットワークの強化」に対する取組が必須となっていることもあり、八戸圏域においても、地域公共交通の維持・活性化のための施策については、当初から重点的に検討を進めてきました。

そこで、平成21年9月に八戸市と構成町村間で結ばれた定住自立圏形成協定に基づき、県、バス・鉄道事業者及び学識経験者を交え協議を重ねるとともに、圏域住民へのアンケート調査や公聴会的意味合いも兼ねた公共交通セミナーを実施し、平成22年11月に「八戸圏域公共交通計画」を策定しました。

今回は、計画に掲げる優先実施プロジェクトのひとつである路線バス上限運賃化実証実験が、去る10月1日にスタートしましたので、その概要を紹介します。

八戸圏域における定住自立圏構想の取組について

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,20892,75,html>

八戸圏域公共交通計画について

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,36790,73,239,html>

2. 八戸圏域定住自立圏路線バス上限運賃化実証実験の狙い

八戸圏域においてもそうですが、地方都市における路線バスの運賃体系は距離制（対キロ制）が一般的で、その多くの場合が「バスを降りるまで一体いくらかかるのか分からない」、「運賃の区分が細かく小銭の用意が煩わしい」、「遠距離の移動になると非常に高くて気軽に利用できない」といったデメリットを抱えているのが実情ではないでしょうか。

「八戸圏域公共交通計画」を策定するために実施した住民アンケートの結果でも、「バスについて不便を感じる点」として「運賃が高い」が最上位となり、市部より町村部の方がその傾向が顕著でした。

そこで、圏域住民が圏域内を手軽に移動できるサービスを提供するため、つまりは、定住自立圏構想の趣旨に照らし圏域住民の生活と交流を支援するため、圏域内の広域バス路線を対象とする「500円上限運賃化実証実験」を、平成23年10月から概ね2年間の予定で実施する運びとなりました。これに併行して、八戸市においては、市内バス路線の「300円上限運賃化実証実験」も実施しています。

なお、上限運賃化（運賃改定）により運送収入の減収が見込まれるため、実験対象路線の運行事業者に対しては、運行により生じた収支上の「欠損に対する補填」という位置づけではなく、「圏域住民の生活支援」を図るといった政策目的をもって、圏域市町村相互の適切かつ合理的な負担按分のもと事業負担金を支出する枠組となっています。

3. 運賃改定の概要

では、実証実験にて設定した運賃体系（改定運賃）について説明します。

（1）圏域路線

まず、八戸圏域8市町村の複数市町村をまたぐ広域的な路線（運行事業者：南部バス（株）、十和田観光電鉄（株））については、初乗り運賃は150円、150円以上は50円刻みとし、上限を500円に設定しました（小児運賃は半額）。

なお、広域的な路線以外であっても、一部路線を除き50円刻みの運賃に改定されていますが、圏域外の市町に通じる路線にあつては、圏域内で乗降した場合に限り改定運賃が適用されることとなります（例えば、対象路線の中には、岩手県につながる路線、青森県内でも六戸町や十和田市につながる路線がありますが、圏域外から乗車した場合、あるいは圏域外で降車する場合は従来の運賃のままとなります）。

旧運賃	130円	140円	150円 ～ 190円	200円 ～ 240円	250円 ～ 290円	300円 ～ 340円	350円 ～ 390円	400円 ～ 440円	450円 ～ 490円	500円 以上
改定運賃	150円	150円	150円	200円	250円	300円	350円	400円	450円	500円

（2）八戸市内路線

八戸市内のバス路線（運行事業者：南部バス（株）、十和田観光電鉄（株）、八戸市交通部）については、初乗り運賃は150円、150円以上は50円刻みとし、上限を300円に設定しました（小児運賃は半額）。

各事業者が運行する「100円ワンコインバス」などの企画路線を除き、市内の全路線が対象となりますので、先に述べました広域的な路線についても、市内のみでバスを利用する場合の運賃の上限は300円となります。

旧運賃	130円	140円	150円 ～ 190円	200円 ～ 240円	250円 ～ 290円	300円 以上
改定運賃	150円	150円	150円	200円	250円	300円

4. 企画乗車券

次に、この実証実験とあわせて、中心市たる八戸市と直通でアクセスできない町村への乗継対策のために、あるいは八戸市の中心街とその近郊における周遊性の向上を図るために、去る10月1日から運用を開始した2種類の企画乗車券について紹介します。

（1）田子・新郷発着路線乗継支援企画乗車券

圏域内の町村のうち田子町と新郷村には、圏域の中心市である八戸市とを直接つなぐバス路線がありません。つまり、田子町もしくは新郷村と八戸市を路線バスで往来するためには、乗継ぎを要

することとなり、運賃は片道で最大1,000円を要することになります。それでも、従来の運賃よりもお得になっている訳ですが、実証実験の位置づけの中で、乗継ぎの抵抗感を抑えるため、更に割引となる片道800円（小児は半額の400円）にて、乗継支援企画乗車券を販売しています。

乗車券自体は観音開き方式という珍しいデザインで、裏面には路線図や乗継ポイントが示されています。



図2：田子・新郷発着路線乗継支援企画乗車券の見本

(2) まちパス300

今回の運賃改定では、従来の運賃に比べ大概値下げになるのですが、従来の初乗り130円・140円の区間は、「50円刻み」という分かりやすさを追求する実験の趣旨から150円となり、事実上値上げになっています。

そこで、従来の初乗り130円区間で最も利用が多かった八戸市中心街とその近郊（大型ショッピングセンターが立地する江陽・沼館地区など）結ぶ指定エリア内であれば1日何回でも乗り降りできるフリー乗車券「まちパス300」を販売しています。

料金は、1枚大人300円、小児150円です。

現在、八戸市では、中心市街地活性化が重点課題のひとつとなっていますが、「まちパス300」を利用すれば、買い物やちょっとした外出、ビジネスでの移動など、中心街及びその近郊での周遊に便利でありますので、中心街のにぎわい創出に期待したいところです。

また、「まちパス300」は、南部バス、十和田観光電鉄及び八戸市交通部の3事業者いずれのバスの路線にも利用できる画期的な企画乗車券です。



図3：「まちパス300」PR用チラシ

※ ちなみに、この3事業者では、回数券の運用に関して、どの事業者が発行・販売した回数券であっても、お客様が乗車したいいずれのバスでも共通に利用できるサービスを平成8年から実施しており、利便性の向上に努めてきたところです。

5. 多角的なモビリティ・マネジメント戦略

実証実験を淡々に行うだけではなく、運賃改定の実施やそのメリットを広く知ってもらうために、各市町村における広報はもちろんのこと、チラシやポスターの作成及び配布及び公式ホームページの配信なども行っています。

八戸圏域定住自立圏路線バス上限運賃化実証実験公式ホームページ

<http://www.hachinohebus300500.jp/>



図4：公式ホームページのトップ画面

また、モビリティ・マネジメントの趣旨も兼ねまして、新聞広告や地元ケーブルテレビでのオリジナル番組の放映など、各種メディアを活用した多角的な広報戦略も実施しています。

そのほか、実証実験開始直前の9月25日（日）と26日（月）には、同一デザインのPR用Tシャツを着用したスタッフによる広報パフォーマンスを実施しました。具体的には、路線バス内に乗車してのPR、八戸市中心街での集団行進、中心街及び大型ショッピングセンターなどでのチラシ配布を行いました。



八戸テレビ放送による番組収録にてインタビューを受ける
八戸圏域公共交通計画推進会議 吉田樹 座長
(首都大学東京大学院助教=右から二人目=)



八戸市中心街での広報パフォーマンスの様子

ちょうど先日も八戸市出身のお笑いコンビ「あどぼるーん」がMCを務める「シュワっと爽快バラエティー まるっと！」（ABA青森朝日放送）の収録が行われましたが、番組の中で、いわゆるパブリシティという形で、路線バスや上限運賃化の話題についても取り上げられる予定です（青森県ローカルですが、11月25日深夜0時15分から放送予定です）。

今回の実証実験では、こうしたテレビ番組なども通じて、一般的にバス利用が見込まれる高齢者や通学生などばかりではなく、幅広い層への呼びかけを試みているところです。



「あどぼるーん」のお二人（新山大さん・小野ますのぶさん）
とABA坂本佳子アナウンサー
(八戸市三日町にある「八戸中心街ターミナルモビリティセンター」前にて)

シュワっと爽快バラエティー まるっと！（ABA青森朝日放送HP）

<http://www.aba-net.com/marutto/index.html>

6. 結びに・・・？

上限運賃化実証実験はまだ始まったばかりであり、実験にどのような効果があったのかという部分については、さすがにご説明できないところですが、地元紙の見出しの一部を引用しますと「分かりやすい」、「遠距離ほど得」、「利用者歓迎」等々とありまして、好スタートを切ったような捉え方をされている印象です。

同様に、新聞紙上の読者投稿欄においても、「上限運賃化に期待」、「バス利用が増えてほしい」といった好意的な意見が掲載されていますので、今後バス利用が活性化することにより、圏域住民の移動・交流が促進され、定住自立の名にふさわしい活力あふれる八戸圏域が形成されていくことを願うばかりです。

* * * *

ところで、今回ご紹介しました上限運賃化実証実験のほかにも、八戸市においては、平成 21 年 3 月に策定した八戸市地域公共交通総合連携計画に基づき、平成 21 年度から八戸市地域公共交通会議が主体となり、地域公共交通活性化・再生総合事業を実施しているところです。

手前味噌になりますが、同事業での取組が評価され、7 月 12 日、八戸市地域公共交通会議は、平成 23 年地域公共交通活性化・再生優良団体として国土交通大臣表彰を受けたところです。



国土交通省での表彰式終了後、表彰状を掲げる八戸市地域公共交通会議
武山泰 会長（八戸工業大学教授）及び式典出席者。
※東京出張中だった 4 名の八戸市議会議員も式典会場に参席。

本来であれば、この場をお借りして、その取組概要などもご案内したいところでしたが、今回は都合により割愛させていただきました。ご了承願います。

そこで、「八戸市や八戸圏域ってどんなところ？」、「定住自立圏構想やそれに関わる地域公共交通の取組について意見交換をしたい」等々とお思いになった皆さんには、イベント紹介のコーナー（<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1110hatinohe2.pdf>）にて、八戸市において開催される「自治体コンソーシアム形成フォーラム」を紹介させていただきます。

【この記事に関するお問合せ先】

八戸市 都市整備部 都市政策課

八戸圏域公共交通計画推進会議事務局（担当：鈴木）

電話 0178-43-9124

Eメール toshisei@city.hachinohe.aomori.jp